

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表
します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満
たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧
告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 広島県立三次高等学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中高一貫教育
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

住所 〒728-0017
広島県三次市南畑敷町155

E-mail : miyoshi-h@hiroshima-c.ed.jp

Website : http://www.miyoshi-h.hiroshima-c.ed.jp/

児童生徒数：男子 309名 女子 373名 合計 682名
 児童・生徒の年齢 15歳～18歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

年間の活動の中で、E S Dの視点から特に充実した取組みとなったものを1つ取り上げ紹介する。

〔活動のテーマ〕

河川とともに生きる ～三次の地形と防災～

〔活動の目的〕

三次盆地の中心に位置する三次市は過去に何度も洪水被害を経験している。そのため、三次市や広島県は洪水災害を想定したハザードマップを作成したり、社会資本や緊急対応体制の整備に力を入れたりしているが、直近の大水害は昭和47年と現在の生徒たちが生まれるよりもはるか昔の出来事であり、洪水災害が他人事である生徒も多い。本活動は三次市内の巡検調査を通して、生徒の身の回りに存在する身近な防災対策に気付かせ、地形などの地理的事象に対する見方・考え方を育み、防災意識の向上に資することを目的としたものである。

〔活動の概要〕

2年生地理B履修者から希望者を募り、休日の午前中に学校周辺の巡検調査を行う。教員が案内役になり、生徒は設定されたルート上の各地点において教員から説明を聞いてしおりにメモを取る。授業において学習した地形や都市の成り立ちなどの知識が実際の三次の街ではどのようにあてはまるかを確認するとともに、様々な場所に整備、設置された防災・減災設備を確認しながらその役割についても学習する。また、特に大きな被害を出した昭和47年の洪水当時の浸水域や被災状況を学習しながら、この教訓を踏まえた現在の防災対策についても、ハード面だけでなく警戒情報の伝達システムやハザードマップの存在など、ソフト面についての理解も図り、生徒が災害時に主体的に情報を収集し、判断・行動できる力を養うことをねらいとする。昨年度は15名、今年度は7名の生徒が本活動に参加した。

〔持続可能な社会づくりに貢献する点〕

生徒たちが日々何気なく生活している地域においても、水害対策が常に講じられており、大雨時には堤防内の雨水を堤防外の河川へ排水するための樋門(ひもん)とよばれる設備の操作を三次市から委託された地域住民が行っている。しかし、地域経済の疲弊とともに三次市内の自営業者が減少し、平日の昼間には三次市外へ通勤する市民も多く、現在ではこの樋門操作員の不足と高齢化が大きな問題となっている。樋門そのものは堤防のいたるところにみられ、生徒たちにとっても必ず目にしたことのあるなじみ深いものであるが、その役割や現在直面する問題はほとんど知られていない。防災は行政に一任するものではなく、そこに暮らす住民一人一人が主体的に関わることで地域が維持されていることを学ぶことが可能である。本活動を通してこれらの知識を身に付け、現状を把握した上で、生徒たちが将来こうした業務に主体的に関わったり、日頃から高い防災意識を持ち続けたりすることは、故郷の持続可能な社会づくりに貢献しうると考えられる。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）